



2011～2012 年度 1 1 月



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

浪江ロータリークラブ

The Rotary Club of NAMIE

第 2046 回 例会記録 (平成 23 年 10 月 13 日)

於: 郡山市ホテル華の湯

3クラブ合同移動例会

進行: 川橋昭義幹事

*** 会次第 ***

1. 例会点鐘
2. 黙禱
3. 国家「君が代」
ロータリーソング「奉仕の理想」
3. ロータリーの綱領
4. 四つのテスト
5. 3クラブ会長挨拶
浪江ロータリークラブ会長 伊藤 公明
富岡ロータリークラブ会長 宮嶋 清憲
小高ロータリークラブ会長 飯崎 忠雄
7. 相双分区ガバナー補佐 酒井 義盛様 挨拶
8. ご来賓紹介
9. RI第2530地区ガバナー 根本 一彌様 卓話
10. 幹事報告
11. 閉会点鐘
12. 記念撮影

◆ 会長の時間 ◆

まず、10月13日に行われました例会のご報告をいたします。今回は、福島第一原発から20km圏内にある富岡・小高・浪江の3クラブが合同で公式訪問として根本ガバナーをお迎えし、例会を開催しました。全体で108名の会員のうち、約

半数の方が集まり、遠く長野、神奈川、新潟、山形などからもおいでになりました。

各クラブ会長、酒井ガバナー補佐の挨拶ののち、根本ガバナーの卓話をいただき、今年度のRIカルヤン・バネルジー会長の方針、そして私たち3クラブを含め被災地のクラブを励ます言葉をいただきました。その後、出席者全員が一人ひとり近況報告をし、皆様のこれまでのご苦勞と、それでもなお前向きに進んでおられることに私自身安心をした次第です。

今回の合同例会におきまして、ご来賓や会員の皆さま、もとより地区の皆さまには大変お世話になりましたこと、心から感謝申し上げます。



さて、台湾の台北北区ロータリークラブより「台湾の父親が日本の父親に贈る百文字の手紙」ならびに「台中北屯區小学校の子ども達から日本の被災地の小学校へ贈る百文字の手紙」の小冊子が届きました。その中のひとつをご紹介します。



「親愛なる日本の友達へ」

台中市北屯小学校4年 陳凱柔

無情な大津波が あなた方の家を押し流し、家族を奪ってしまうニュースを見てとても悲しく思いました。

大震災のみんなの勇気と規律を守るという精神は、本当にすごいと思いました。

桜はいつも葉が落ちてしまった後、また春につぼみが実り、輝いて咲きます。

日本のみんなが、桜の花のように、生まれ変わり輝き、新しい人生に向かって、頑張っていけることを祈っています。

今回の東日本大震災に際して、3月28日の時点で134の国・地域及び39の国際機関等から支援の申し入れがありました。

今回、小冊子を贈ってくれた台湾からは最大級の支援をいただき、アメリカは今回の支援体制を「トモダチ作戦」と名付け、最大人員約2万人、艦船約20隻、航空機約160機を投入。物資を被災地に運び、日本の自衛隊とともに沿岸部で行方不明者の捜索に力を注いでくれました。

原発事故に関しても、無人偵察機を飛ばして撮影した写真を日本側に提供するなど、数多くの分野で労を惜しまなかったとのことでした。

カンボジアの小さな小学校では約100人の児童が昼食代のお小遣い100～500リエル（2～10円）を募金箱に寄付。小さな低学年の子どもたちまでもがくしゃくしゃになったお札を握り締めて来たそうです。

在モンゴル日本大使館には、孤児院から義援金が寄せられ、「生徒たちの強い希望です。」と孤児約40人が政府支給の生活保護金1カ月分（約1250円）を寄付して下さったそうです。

世界が日本へ差し伸べた支援の手を考えるに、私たち浪江ロータリアンはこれまで世界の貧困

や紛争に対して、国際社会の一員としての十分な手を世界に差し伸べてきてでしょうか。

今回の震災では失うものもありましたが、今まで見えなかったものが見えたようです。

会員の皆さまにおかれましては、寒さに向かう中まだまだ避難生活もしばらく続くかとは思いますが、体調をくずされないようご自愛ください。



◆ 幹事報告 ◆

- ① 10/13の席で根本ガバナーといわき分区より義捐金を頂戴しました。
- ② 台湾の台北北區ロータリークラブから「日本の被災地へ贈る手紙」の小冊子が事務局に届いております。
- ③ 毎月、ロータリーの友誌や月信などを各会員宛に発送しております。住所変更がありましたらその都度事務局へお知らせ下さい。

